

大学改革の中のFM

藤村 達雄

キャンパスFM研究部会 部会長
群馬大学 施設運営部長
認定ファシリティマネジャー



大学は、社会との関わりの中で、戦略を立て、教育研究の組織をつくり、人を動かして行くことが求められている。これを実現するために、大学経営支援の立場から、キャンパスFMは欠くことができない。施設担当者として、学長にFMをどのように理解させていくかが、命題である。キャンパスFMは、用語として随分と普及してきたが、より具体的な取り組みが分からず、おのおのの大学での推進は、いまひとつのところである。キャンパスFM 研究部会では、施設が大学にどう貢献できるかを真剣に考え、4つ(ベンチマーキング、建築プログラミング、セルフアセスメント、保全業務)の分科会で、必要な事柄を研究している。

先日、インタビューを行った教職大学院の機能強化を進める国立大学のファシリティマネジャーから、「小中一貫校の整備プロジェクトで、教員が新しい教育理念に基づく授業方法や日頃の学校生活を語ってくれなくて苦労している」と伺った。また、「保全業者を第2の施設部にする」という理念のもとで、保全業務の一括化を進めている大学からは、「保全業者が戦略的な提案をしてくれない」と聞いている。一方、業界初である全キャンパスの保全業務を含めた「管理一体型ESCO 事業」を進める国立大学や、整備プロジェクトで生み出される「モノ」と、そこで行われる「コト」の両方を都心回帰につなげた私立大学などもある。このように、現在のキャンパスFMは、課題とベストプラクティスが混在している。

また、大学改革の中のFMとしては、次のようなことがいえる。第2期教育振興計画等では、教育研究

活動を支える環境整備として、大学ガバナンスの機能強化、機能分化の推進、財政基盤の確立と施設整備が求められている。このような状況下では、教育研究を進める教員、企画・財務・施設の本部職員と運用職員等が、アイデアを出し合い計画を立て、的確にモニタリングを行い、達成度評価を次につなげていくというマネジメントサイクルが不可欠である。さらに、社会の趨勢からの課題には、地球環境問題、インフラ老朽化、顧客満足、アウトカムの達成、IR^{*}(インスティテューショナル・リサーチ)への関心の高まりなどがあげられる。

キャンパスFM研究部会では、このような状況を踏まえ、要求事項や制約条件を明確にするプログラミング、戦略達成のためのプロジェクト、環境保全対策、学内資源配分、長寿命化、保全業務の品質確保、情報管理システムに力点を置いた研究活動を進めている。今回のフォーラムでは、「大学改革を支援するキャンパスFM手法の開発」というタイトルにし、ベンチマーキング分科会が「環境保全」「電気料金一部還元(負担)制度」「都心回帰」の視点から3大学にインタビューした結果と、今年度から活動を始めた保全業務分科会が目指す魅力ある保全業務のための課題を紹介した。

※IRは、大学の運営に役立つ情報を提供する役割を担う機能であり、米国・加国ではほとんど全ての大学に設置されている部署である